



「あなたは大切な人」 と伝えるキャンプ

藤井 辰男

Fujii Tatsuo

元奈良YMCA総主事
元北陸学院中学・高等学校校長
元金沢YMCA理事

▼ YMCAとの出会い、「私の夢」

私は20歳の時、オーストラリア・ニュージーランドで6,400 km、サイクリングの旅をしました。それは中学生の頃から抱いていた、世界を見てみたいとの「私の夢」でした。この4ヶ月の旅で多くの出会いがありました。人の思いやりに出会い、自然の神秘さに感動し、そして神様との出会いの場となったのです。

幼少の頃から近くの山で仲間とよく遊び、多感な中学・高校時代の夏には友達とテントを担いでキャンプに行き、自然と親しむ機会が多くありました。これらの貴重な体験が、私の「夢」の原点となりました。

大学に入ってから、偶然に高校柔道部の先輩と出会い、「私の夢」を語りました。「英会話を勉強せんと・・・」と話す、その日の内に先輩に連れて来られたのが奈良YMCAでした。

その後「ボランティアリーダーをしてみませんか」との誘いに、緊張しながらも胸をときめかせながらリーダー活動に参加したことが今でも鮮明に思い出されます。

私はこの「私の夢」、青春の旅があったからこそYMCAと出会い、YMCAのキャンプと出会うことができたのです。

▼心に響き合う出会い

YMCAの活動を通して子どもたちと出会い、人と向き合うことで心に響き合う新鮮なものを感じとることができました。とても価値あることに会うことができたのです。そして私の歩むべき道が示されました。

肢体不自由児のキャンプでは、車いすを押しながら子どもたちにゆっくりと寄り添うリーダーの姿。ゆったりとした豊かな時が流れ、共に生きている喜びを感じる瞬間でした。また満天の星を眺め神秘的な光景に感動し、仲間と夢を語り合い、励まし合った中学・高校生キャンプ。キャンプのお別れの集いでは、共に過ごした仲間やリーダーとの別れを惜しみ流した涙、「また会おう」と約束しあう光景をよく目にしました。

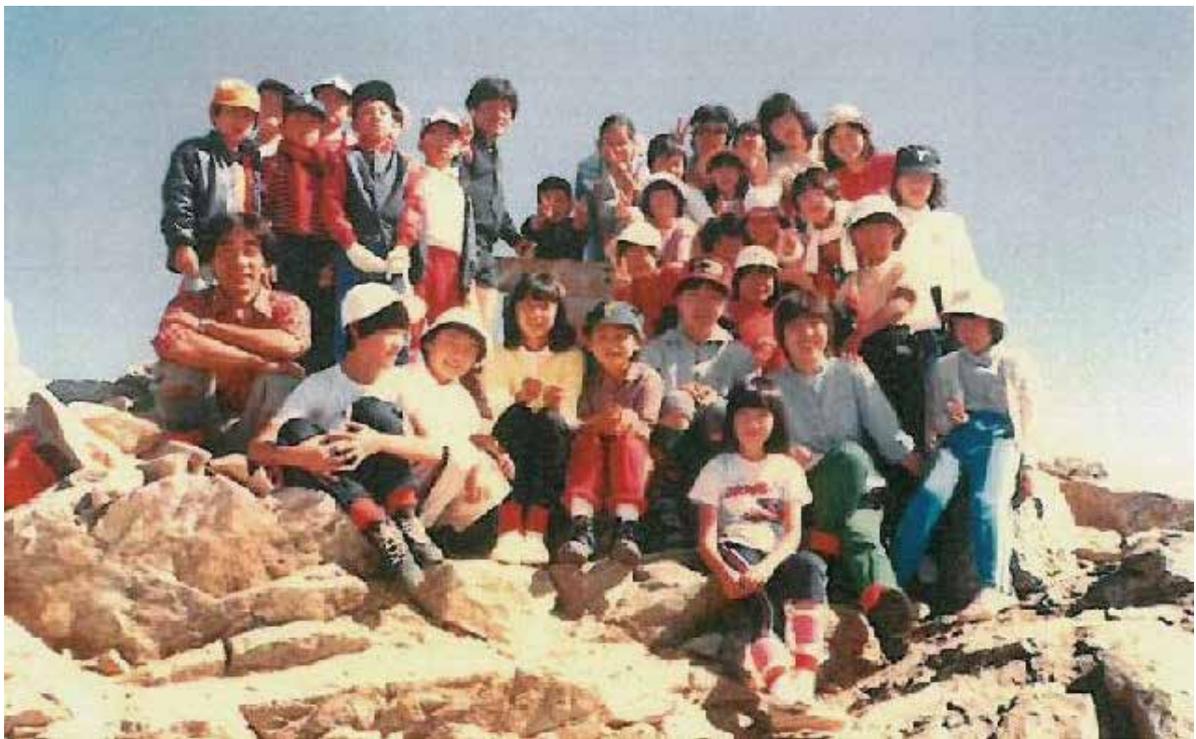
今も私の心の中にその時の光景がはっきりと刻まれ、生涯忘れることのできない貴重な体験となり、豊かな恵みとなったのです。これらの多くの出会いを通して、YMCAキャンプの意義を強く実感しました。

また、国際・地域奉仕センターを担当し、「国際平和」への取り組み、「震災支援活動」、「四川地震国際ワークキャンプ」等、苦しみ・悲しみのある人たちと共に「喜び・愛・友情」を育み、グローバルな視点で支え合いながら生きることの大切さ、YMCAのあるべき姿を自らも学ぶことができました。

ボランティア活動を含めYMCAに40年間携わり、その後、キリスト教主義の中学・高等学校に4年間務めることができ、YMCAが行う社会教育と学校教育の両教育の役割の大切さを強く感じました。中学生・高校生と共に過ごす中で、特に望んだことがあります。人格形成において重要な時期である中学生・高校生の時代には是非体験してほしいこと、それが「YMCAキャンプ」でした。



<四川地震国際ワークキャンプ>



<北アルプス山岳キャンプ>

▼ これからも「あなたは大切な人」と伝えるキャンプを

日本のYMCAが組織キャンプを始め、1995年に75周年を迎え、「CAMP FORUM 95 IN JAPAN」が開催されました。「未来への探求 生命の賛歌」をテーマに、21世紀に向け、YMCAキャンプの使命とは何かが話し合われ、未来へのメッセージが示されました。

その後、YMCAキャンプが100周年を迎えようとする今日、価値の多様化、複雑な社会にあって、不登校、いじめや自殺等、青少年の問題がますます深刻化しています。こういう今の時代だからこそ、「あなたは大切な人」と伝えることがより重要になっています。自分が誰かに必要とされている存在であることに気づき、生きる意味を見出し、自信をもって主体的に生きること、すべての子どもたちの笑顔が溢れる社会・世界を目指すことが、YMCAキャンプに求められているのではないのでしょうか。

これからもYMCAキャンプが、未来に希望をもって「生命を讃美」し「平和」を求め、「互いに愛し合いなさい」との聖書に語られているイエス様のメッセージを伝え、思いやり、支え合って生きることの喜びに出会い、「生き方が新たにされる」キャンプであり続けて欲しいと願っています。

Profile



1952年 奈良市生まれ。
奈良YMCAに奉職し、37年間勤務。
奈良YMCAでは、ウエルネス事業、国際語学・地域奉仕事業を担当、総主事を務める。
その後、北陸学院中学・高等学校校長を4年間務める。

【取材 奈良YMCA総主事 三枝 隆】